

印旛沼流域水循環健全化会議 第6回委員会 議事要旨

日時：2004年6月29日（火） 14：00～17：00

場所：千葉県自治会館 6階 大ホール



議事要旨：

1. 平成16年度スケジュールについて

- ・ 市民団体意見交換会の開催時期はいつ頃か。（NPO 印旛沼広域環境研究会 太田）
事前に行った活動内容アンケート結果を7月末までにとりまとめ、その後、会議の進め方を検討する。（事務局 吉田）
- ・ 市町村単位または地域単位で行動計画の説明会を実施して欲しい。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山）

2. 緊急行動計画の進捗について

(1) 具体的な対策について

- ・ 単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に対して補助を行う場合、市町村によって通常型合併浄化槽に対する補助と高度型合併浄化槽に対する補助とがあるが、どうしてこのような違いがあるのか（印旛沼環境基金 本橋）
高度処理型合併処理浄化槽には窒素・リン除去型と窒素除去型があり、佐倉市では両方のタイプの高度処理型浄化槽に対して補助を行っている。（佐倉市土木部 安本）
- ・ 通常型合併浄化槽設置に対する補助は残すのか。また、通常型合併浄化槽から高度処理型合併浄化槽への転換への補助はあるのか。（印旛沼環境基金 本橋）
今後、検討する。（佐倉市土木部 安本）
県では、平成16年度から高度処理型合併処理浄化槽の普及促進と単独から合併への転換を促進することに重点を置いた制度に変更した。今後、流域の市町村も同様の補助制度が整備されるよう期待している。ただし、高度処理型は設置スペースをとること、また窒素・リン同時除去型の市販品は選択肢が少ないことから、当面は高度処理型と通常型の併存もやむを得ないと考えている。（事務局 千代）
- ・ 通常型を一旦設置すると、経済的な問題などがあり高度処理型への転換は進まない。高度処理型が普及しない理由の解明や、技術開発（高度処理型の小型化）などを、千葉県で検討して欲しい。（NPO 印旛沼広域環境研究会 太田）
- ・ EM菌を撒くことによる飲料水への影響はないのか。（印旛沼環境基金 本橋）
EM菌を定期的に住民に配布し、側溝などに蒔いてもらっているが、はじめたばかりで影響などはよくわからない。（印旛村建設課 鈴木）
雑排水の臭いが消える効果はあったが、印旛沼の水質が改善されるほどの効果はない。（栄町まちづくり推進事業部 大澤）

- ・ 本埜村の下水道やちばエコ農業への取り組み等、行動計画進捗管理表（資料 2、2-3 ページ）の中で空欄のある対策についてはチェックし、進捗管理を厳密に行って欲しい。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山）
- ・ 「水系連続性の確保」に取り組んでいる主体が全くないので、検討して欲しい。（千葉県立中央博物館 中村）
- ・ 八千代市で性フェロモン剤を使用しているが、生態系への影響は把握しているのか。（千葉県立中央博物館 中村）
性フェロモン剤の使用は始めたばかりなので、様子を見ながら使用していく。（八千代市土木部 石原）
性フェロモン剤を農薬として登録する際に試験を行っているので、生態系へ影響はないと考えている。しかし、実際に使用する圃場において、モニタリングは実施して欲しい。（千葉県農林水産部 渡邊）
- ・ 水田の冬季湛水は重要なので、国や県で研究を促進して欲しい。（千葉県立中央博物館 中村）
県でも環境への好影響を調査しているが、実際の実施は農家の判断となる。ただし、冬季に水田に水を張ることは、水利権や費用面などで問題が生じるので、現時点では冬季湛水を行っていくことは難しいのではないかと。（千葉県農林水産部 渡邊）
- ・ 浚渫や浄化施設、植生帯の設置の予定及び湖沼水質保全計画と緊急行動計画の関係についての説明を書面でいただきたい。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山）

(2) 全体について

- ・ 市町村によって、進捗状況にばらつきがある。発表するだけではだめで、どのように足並みを揃えるかが重要である。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山）
取り組みが不足している部分は、流域内で補いあって進めていく必要がある。（堀田委員長代理）
- ・ 計画や目標と比較した進捗状況や、今後の工程を明確にすべきである。（東京大学 味埜）
対策アンケートは、市町村により回答方法にばらつきがあり、数値を把握することが難しかった。今後、担当者会議を開催して、対策の進捗管理方法を検討する。（事務局 吉田）
- ・ 不法投棄等に関して、条例を違反した場合の罰則を厳しくすべきである。（中央大学 山田）
- ・ 農業、漁業以外の産業、例えば建設業（例：資材置き場の管理）、住都公団（例：調整地の設置）、工業団地（例：排水規制）などについても対策も進めるべきである。（中央大学 山田）
- ・ 沈船の処理等、沼内の対策はだれが担当するのか。（中央大学 山田）
- ・ これまでの検討で流域毎の問題点が明らかになってきたので、今後は流域毎に対策量をまとめてはどうか。（東京農業大学 藤井）
- ・ ちばエコ農業の定義や内容がわかりにくい。（東京農業大学 藤井）
ちばエコ農業とは、農薬・化学肥料を既存の半分以下に抑えることで、県からエコ農産物の認証を与える制度である。（千葉県農林水産部 渡邊）
- ・ 本年 10 月に家畜排せつ物処理法の猶予期間が終了し、対策が義務づけられる。畜産対策の状

況は把握しているのか。(東京農業大学 藤井)

畜産農家全戸に対して、家畜排せつ物の処理方法について聞き取り調査を行ったところである。今後、追跡調査を行い、法律を遵守するよう指導を行っていく予定である。(千葉県農林水産部 渡邊)

- ・ 既存の農業系負荷削減対策技術はどの程度普及しているか。(東京農業大学 藤井)
土壌中の窒素の地下水への溶解の速度やその量の把握や、施肥法改善による施肥量の削減、等については、これまで試験を多く行ってきており、またかなり普及している状況である。ただし、この場では具体的な説明は難しい。(千葉県農林水産部 渡邊)

3. モニタリング調査について

- ・ 印西市や白井市は、今年度生物モニタリングを予定している。また、佐倉市など他市町村による過去の調査も存在する。これらの調査内容で整合をとり、今後活用する必要がある。(東京情報大学 原)
- ・ 河川、谷津田、斜面林等で面的な植生調査が必要である。(東京情報大学 原)
- ・ 見透視度は住民に測定してもらった項目なので、住民が測定する際の判断基準があるとよい。自らが測定した数値が持つ意味がわかるようになる。(印旛沼環境基金 本橋)
今後、検討する。(事務局 伊東)

4. みためし行動について

- ・ 生活雑排水対策の候補地点として、なぜ清水台団地を選定したのか。桑納川流域の方が市街化が進んでいるので、適地ではないか。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)
清水台団地では、過去の水質データがあり、住戸数が少ないため対策を進めやすいことから選定した。(事務局 吉田)
桑納川では、別途河道植生機能調査を実施する予定である。(事務局 吉田)

5. 浸透能力調査結果について

- ・ 浸透マスの効果はどれくらい持続するのか。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)
そのままでは効果は続かない。清掃・管理は必要である。(事務局 吉田)
国土交通省も基準を作成している。庭に設置する場合、落ち葉や土砂が混入して目詰まりしやすい。この対策をとったタイプもあるが、いずれにしても管理は必要である。(国土交通省 河瀬)

6. その他

- ・ 土木研究所や様々な研究機関などと協力して、情報共有を図り研究を進める仕組みがあるとよい。(中央大学 山田)
- ・ 長期計画策定の時期を明確にして欲しい。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山)
- ・ 水質保全計画と健全化計画はどちらが優先されるのか。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山)